

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 4 部門第 1 区分
【発行日】令和 6 年 1 月 4 日(2024.1.4)

【公開番号】特開 2022-150251(P2022-150251A)
【公開日】令和 4 年 10 月 7 日(2022.10.7)
【年通号数】公開公報(特許)2022-185
【出願番号】特願 2021-52776(P2021-52776)
【国際特許分類】

E 0 3 D 5/10(2006.01)

10

E 0 3 D 11/02(2006.01)

A 4 7 K 13/10(2006.01)

【F I】

E 0 3 D 5/10

E 0 3 D 11/02 Z

A 4 7 K 13/10

【手続補正書】

【提出日】令和 5 年 12 月 21 日(2023.12.21)

【手続補正 1】

20

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

また本発明の便座装置は、便座と、便蓋と、該便蓋の開閉を検知する便蓋開閉検知部と、前記便蓋を開閉する便蓋駆動部と、ボウルを有する洋風便器本体に対する洗浄指示を受け付けるボウル洗浄指示手段と、を備え、前記洋風便器本体に取りつけられる便座装置であって、前記ボウル洗浄指示手段による洗浄指示があったときに、前記便蓋が開状態であれば、前記便蓋の開動作が開始し、その後、閉止するまでの間に、前記ボウルへの洗浄水の供給を開始するように前記洋風便器本体に洗浄指示を出力することを特徴とする。

30

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0029

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0029】

さらに洋風便器装置 1 は洗浄操作部 29 を備えている。この洗浄操作部 29 は、洗浄の指示を、後述する制御部 5 を介して便器洗浄部 13 に出力する大使用洗浄ボタン 29a および小使用洗浄ボタン 29b を備えている。

40

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0061

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0061】

洗浄指示を受けたときに便蓋 20 が閉状態であれば、その後すぐにボウル 12 の洗浄が実行される(S201のY、S202)。洗浄終了後には、使用者のボウル 12 内の確認のために、便蓋 20 を開動作させ、開状態となってから一定時間後に、開状態となった便蓋 20 を閉動作させて、閉止させる動作がなされてもよい。

50

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0075

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0075】

洋風便器装置 1 としては、便座 24 と便蓋 20 とが一体として取り替え可能なものであってもよい。特に図 7 に示すような便座装置 30 が後付けされた（あるいは取り替えられた）洋風便器装置 3 であってもよい。図 7（a）（b）にもとづいて、本発明の他の実施形態に係る洋風便器装置 3 およびそれに用いられる便座装置 30 の各基本構成について説明する。

10

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0081

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0081】

なお、図 7（a）に示すように、洋風便器装置 3 は便座装置 30 側のボウル洗浄操作部 49 だけではなく、洋風便器本体 3A 側の洗浄操作部 29 をも含んだ構成とされている。つまり、図 7 のものは、洗浄操作部 29、ボウル洗浄操作部 49 のいずれでも洗浄指示ができる構成とされている。また、洋風便器本体 3A 側に洗浄操作部 29 を設けずに、ボウル洗浄操作部 49 でのみ洗浄指示ができる構成であってもよい。なお、ボウル洗浄操作部 49 も大使用洗浄ボタンと小使用洗浄ボタンとを有することが望ましい。

20

30

40

50